



JICA アゼルバイジャン視察団が筑波大学附属病院を来訪

国際連携推進室

2月24日(水), JICA アゼルバイジャン国別視察団の一行6名が筑波大学附属病院を訪れ, 視察研修を行いました。

一行は, JICA 2015年度アゼルバイジャン国別研修「病院マネジメント改善」の研修員として来日した病院経営者であり, 今回の視察研修は, 日本国内の病院経営手法や, 医療施設・機材の維持管理手法等を学び, 自国アゼルバイジャンの人材育成に寄与することを目標としています。

当日は, はじめに院内視察研修として, ビジネス病棟, ICU, 救急・集中治療部をまわりました。ここでは各専門分野についての質問が非常に多くあがり, 時間が足りなくなる程でした。その後, 陽子線センターに移動し, 松村 明附属病院長から歓迎の挨拶があり, 坪井 康次陽子線センター長, 坂東 裕子准教授, 八木 洋也講師からも歓迎の挨拶および診療科の概要等の説明がありました。続いて, ロシア語ビデオによる陽子線治療概要説明の後, 実際に陽子線センター内の施設を見学しました。見学時には, 榮武二 陽子線センター教授が同行し, ここでも多くの質問があり, 熱心な質疑応答がなされました。

一行からは, 「大変実りある研修であり今後も医療交流を続けたい」という話題もあり, 充実した研修となったようでした。今後の相互医療交流が活発に行われることが期待される訪問となりました。



通訳を介して熱心に質問を続ける視察団
(ビジネス病棟にて)



アゼルバイジャン視察団と記念撮影
(陽子線センター会議室にて)

ホーチミン医科薬科大学 分子生物学センター 遺伝学科長が 筑波大学附属病院を訪問

国際連携推進室

3月4日（金）、ホーチミン医科薬科大学分子生物学センター遺伝学科長 Dr. Hoang Anh Vu（ホン・アン・ヴー）が筑波大学附属病院を訪問し、施設見学及び秋山 稔国際連携推進室長と懇談をしました。ベトナム、インドネシアの学生10名が、"Undergraduate Medical Science Course"で2月末から2週間、つくばに滞在し、同氏はこのコースのベトナムチームの引率者として来日しており、今回の訪問が実現しました。

まず、筑波大学附属病院ではヘリポート、特別病棟、ICU、救急外来を視察しました。その後の懇談では、同氏は2007年に東京大学で博士号を取得し、早稲田大学で2年間の研究生生活を送るなど、日本での経験は長いものの、つくばを訪れるのは初めてということで、ヘリポートから眺めたつくばの広大な風景が印象的であったと語っていました。

ホーチミンにある筑波大学海外拠点事務所は、近くホーチミン医科薬科大学内に移転することもあり、今後も両校の協力関係が深まっていくことが期待されます。



ヘリポートにて



特別病棟にて

平成27年度附属病院ボランティア懇談会が開催されました

病院総務部医事課

3月18日（金）、筑波大学附属病院特別第3会議室において、病院長主催の平成27年度附属病院ボランティア懇談会が開催されました。

最初に松村 明病院長、小泉 仁子副病院長（看護部長）及び岩堀 孝子ボランティアの会代表からあいさつがあり、引き続き、ボランティア活動10年継続者3名の表彰及び平成27年度ボランティア活動報告並びに平成27年度の役員紹介が行われました。

引き続き、ボランティア一人ひとりから、自己紹介と日々の活動を通して感じたことや病院への要望等が寄せられました。

最後に、水谷 太郎副病院長から、「筑波大学附属病院の防災体制について」東日本大震災の被災状況及び本学・本院の対応並びに今後予想される震災等への対応等について講演が行われました。ボランティアから、将来発生が予想される震災等に対し、ボランティアはどう行動すべきか等について質問があり、活発な意見交換が行われました。

懇談会は終始和やかな雰囲気が進み、ボランティアからは、新たな気持ちで来年度も活動を継続したいとの声が寄せられました。



挨拶される松村病院長



挨拶される岩堀ボランティアの会代表



継続活動者を表彰する松村病院長



ボランティア懇談会の様子

平成 27 年度『後期防災訓練』を実施

病院総務部経営管理課

3月2日（水）、筑波大学附属病院で後期防災訓練を実施しました。

災害拠点病院に指定されてから5回目の総合防災訓練となる今回の訓練は、地震発生から火災の初期消火、そして避難誘導について訓練をしました。

当日14時30分につくば市を震源とする震度6強の地震が発生したという想定の下、院内を54の地区に分けて構成された地区隊による地震初期対応訓練を実施しました。職員は声かけや被害状況報告等をスムーズに行うために各地区体で「アクションカード」を作成しており、それに基づいて訓練を行いました。

また、4つの病棟及び病理部においては地震による火災の発生を想定し、消火器・消火栓を用いた消火訓練、独歩可能・要担送など実際の患者を想定した避難誘導訓練も同時に行いました。特に消火訓練においては、つくば市消防本部の指導の下、消火の手順や注意点を確認することができました。

診療施設での訓練の他に、屋外にて煙が充満した室内を想定した歩行シミュレーション、実際に噴射可能な消火器を用いた模擬消火訓練も行いました。訓練終了後には、つくば市消防本部より実際の消火時の注意点、訓練中の行動について講評をいただきました。

災害拠点病院として地域の防災の要となるべく、今回の訓練での改善点を洗い出し、更なるレベルアップを目指します。



リネン室からの火災を想定した消火訓練



火災発生場所付近から担送患者を避難させる様子
(医師，看護師，薬剤師，事務など多職種のチーム)



つくば市消防本部協力のもと，防災装置の
使用方法を確認



煙が充満した室内を模したテントでの
歩行シミュレーション

◎ 新・役職員紹介

このたび、筑波大学附属病院救急・集中治療部 教授を拝命し、2016年2月1日に着任致しました井上貴昭（いのうえよしあき）です。私は1993年に筑波大学を卒業後、日本の救急医学の老舗である大阪大学特殊救急部に入局し、主に外傷外科、熱傷、重症集中治療の研鑽を積んで参りました。その後2008年より順天堂大学浦安病院において、救命センターの新規立ち上げに参画する機会を得ました。そしてこのたび、母校における救急・集中治療部の更なる拡充と、学生・研修医時代に10年間過ごした愛着のある茨城県の救急医療体制の発展に貢献するべく、赴任させていただきました。自身の20余年に渡る救急医としての臨床経験と研究者としての経験を生かし、大学病院に求められる臨床と研究、そして次世代を担う若手医師・学生、多職種の教育に力を注いで参りたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。



救急・集中治療部長
救急・集中治療診療グループ長
井上 貴昭 教授

◎ 2月紹介患者月別調査表

	(A) 紹介患者 数(人)	(B) 逆紹介患 者数(人)	(C) 救急自動車による 搬入患者数(人) (上記のうち初診患者数 をC'とし、内数で表す)	(D) 初診患者数(人) (上記のうち休日等6 歳未満患者数をD'と し、内数で表す)	診療報酬上 の紹介率 (A+C')÷D (%)
2月	1,503	1,486	286	1,857	90.0

◎ 2月院外処方せん発行枚数等

	診療 日数 (日)	発行処方せん 総枚数(枚)	うち 院外発行処方 せん枚数(枚)	院外処方せん 発行率(%)	1日平均 処方せん 枚数(枚)	1日平均院外 処方せん枚数 (枚)
2月	20	15,778	14,022	88.87	788.9	701.1

◎ 2月曜日別外来患者数

	曜日	月	火	水	木	金
2月	平均	1,676人	1,619人	1,623人	1,905人	1,558人
	最高	1,769人	1,707人	1,702人	2,156人	1,611人
	最低	1,565人	1,508人	1,497人	1,609人	1,470人

◎ 2月患者数

	入 院			外 来	
	延 数 (人)	1日平均数 (人)	病床稼働率 (%)	延 数 (人)	1日平均数 (人)
2月	21,595	744.7	93.1	33,635	1,681.8

病院ニュースは、次のアドレスでご覧になれます。

<http://www.s.hosp.tsukuba.ac.jp/innai/news/> (院内のみ)

病院HPでも一部抜粋して掲載しています。

<http://www.s.hosp.tsukuba.ac.jp/>

「病院ニュース」の次回(451号)の発行は4月28日(木)、原稿締切りは4月21日(木)となります。

「病院ニュース」への寄稿に際しては、できる限り電子ファイル等をお願いします。

なお、掲載情報については、文教速報(官庁通信社発行)等学外へ提供することがありますので、あらかじめご了承ください。

e-mail:hsp.somuka@un.tsukuba.ac.jp 病院総務部総務課総務担当(3519, 3521)